

Press Release

2014年12月24日
(公社)愛知建築士会女性委員会

セミナーで今注目の若手建築家の話が聞ける！
住まいづくりに真剣に取り組む女性建築士が主催するイベント

第24回「わたしらしい住まいづくり」開催のお知らせ

(公社)愛知建築士会 女性委員会では、毎年一般市民を対象に女性建築士の作品や活動パネルの展示を行い、活動を広くPRしています。会期中には一般市民を対象に住まいの無料相談も併せて開催し、セミナーでは今注目の若手建築家、藤村龍至氏をお迎えします。

■パネル展

開催日時 2015年1月20日(火)～2月1(日) 10:00～18:00
*(金)～20:00 *(土・日)～17:00 *月曜休館
場 所 名古屋都市センター まちづくり広場
金山南ビル (ボストン美術館同ビル) 11F

■セミナー

開催日時 2015年1月24日(土) 14:00～16:00
場 所 名古屋都市センター 大研修室
金山南ビル11F
講 師 藤村 龍至 氏
(藤村龍至建築設計事務所主宰、東洋大学専任講師)
演 題 「3.11後の建築を考える～あいちのデザインに向けて～」
資 料 代 500円

■無料建築相談会

開催日時 2015年2月1日(日) 13:00～15:00
場 所 名古屋都市センター まちづくり広場
金山南ビル11F

□後援 愛知県 名古屋市
愛知ゆとりある住まい推進協議会
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
(公社)名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター



藤村龍至氏
photo : Kenshu Shintsubo

ユネスコ・デザイン都市なごや連携事業

主 催 公益社団法人 愛知建築士会女性委員会
e-mail : afa201009@gmail.com HP : <http://afa.asanet.or.jp/>
事務局 : 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル内
TEL : 052-261-1451 FAX : 052-261-0251



■セミナー及び講師のご紹介

今年のセミナーは…

自身の方法論「超線形設計プロセス論」などを提唱し、建築市場の開拓・マーケット拡大に向け積極的な活動が注目されており、建築の最も根源的な問題に対し、真面目に取り組む期待の建築家・藤村龍至氏（ふじむらりゅうじ）氏をお招きし、「3.11後の建築を考える～あいちのデザインに向けて～」というテーマでご講演頂きます。

名古屋でも、あいちトリエンナーレ2013での「あいちプロジェクト」、2014年秋には「久屋大通再生プロジェクト」と市民参加型でのあいちのデザインを提案するプロジェクトを積極的に行う、今注目の若手建築家です。

セミナー後はアンケートにお答え頂いた方の中から3名に藤村氏の著書のプレゼントも予定しています。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

東日本大震災を経て、人口減少や少子高齢化に伴う財政の緊縮化が強く意識されるようになってきた日本では、60年代から70年代にかけて建築された建築物の大量更新が予想され、施設の大幅な統廃合等を通じて社会の縮小が模索されています。ここでは「鶴ヶ島プロジェクト」(2012)、「あいちプロジェクト」(2013)、「久屋大通りプロジェクト」(2014)等で試みたソーシャルデザインプロジェクトを紹介して、縮小の時代に建築家に何か可能か共に考えるきっかけとできればと思います。 藤村龍至



鶴ヶ島太陽発電所・環境教育施設 photo : Takumi Ota



家の家 photo : Takumi Ota

■批判的工学主義の建築
ソーシャル・アーキテクチャをめざして

藤村 龍至（著）

建築設計もWeb2.0型にならって、ユーザーや市民が参加できる直接民主主義型にしなければいけないという、ありがちな主張の本かと思つて読み始めたらい、意味で予想を裏切られた。建築に限らず、その手の2.0型本は溢れています。がつかりさせられることが多い。

しかし、若手建築家最強の論客で、東洋紀たちと福島第一原発観光地化計画で共働する著者は、大胆に、一線を越えて、2.0の先にいった感じがついて、すつきりした。

Web2.0は、そもそも建築（アーキテクチャ）といふ、一種の空間構造化作業をモデルにした、情報空間の再編成だったのだから、建築が2.0にコンプレックスを抱く必要は全くなく、堂々と建築することに開き直れといふのである。しかし、昔のように大きなハコモノを、建築家の独断で作ればいいといつてはいない。設計の民主化の

既成インフラとの接続を提案

藤村 龍至（著）

様々な実験もどりあげている。メンテに金のかからない既成インフラに建築を接続されば、そこにユーザー、市民の参加が自動的に誘発され、大量のコンテンツが流れ込むという提案も目をひいた。「ソフト優先」などと弱音をはかずに、しっかりとつながった建築を作ればいいのだ。

既成インフラの中で、著者はJRに期待をかける。駅と建築を有機的に複合させれば、2.0同様、あとは勝手にユーザーがコンテンツをアップしていくというのである。結果、福島と広島と沖縄をつなぐ国土軸と新幹線が運動し、さらに台湾からアジアへと延びれば、日本再生の新しいプラットフォームの道が開ける。戦前の「満蒙」へ延びる西北軸や田中角栄の列島改造の北西論を90度回転させた希望の南西軸で、これぞ「列島改造論2.0」だともいい切った。3・11後で、いい切った。暗い建築界に、一石を投じるのは間違いない。

評・隈研吾

NTT出版・1944円・ふじむら・りゅうじ 76年生まれ。建築家。著書に「プロトタイプ」ほか。

建築家 東京大学教授